



サンシュユの花



マンサクの花



ロウバイの花

春は黄色い花が多いって本当?!

赤は燃えるようで暑いし、青だと涼しすぎ、なにやら気づっている様でよそよそしすぎるかも。黄色こそ春の色といえるのかも知れない。植物の生存戦略として、ハチや昆虫

山菜萵（さんしゅゆ）にけぶるや雨も黄となんぬ（水原秋桜子）。この秋桜子には何故か黄色い花の句が多い。よほど黄色い花が好きらしい。三原色でも黄色は、なにやら、やわらかく暖かい感じがする。

虫は、黄色に集まりやすいという習性があるらしい。特に早春に咲く花に黄色が多いのは昆虫を呼び寄せるためとする説が多い。あなたは春の花といえば、やはり梅？はたまた桜でしょうか。春の黄色い花を、いくつ挙げられるでしょうか？。春一番にまず咲くが語源となっている、マンサクやロウバイなどが私にはまず先に浮かぶのですが。そもそも、花色に多いのは、白と黄色で三割ずつあるそう、春に多い訳ではないらしい。

(有)林庭園設計事務所
〒193-0823 東京都八王子市横川町991-6
TEL：042-622-8840
再刊 VOL.6



ツクシを漢字にすると、「土筆」と書く、まさに土から顔を出す筆である。ツクシは古名をツクツクシと、いうことで簡略化されツクシになったとのこと。大辞典の「大言海」によれば、春さき地上に突き出てくる突くを



菜の花と桜

重ねた言葉とあるが、必ずしもそうであるとは言えなくて、フクロウの仲間に、ミミツクや、コノハツクのツクと同じで、この場合「まるまる」と肥えた姿、という説が今や本流であるとのこと、その説でいうと「突き出したまるまるした坊主頭」ということになる。因みにツクシはスギナの胞子葉であるが、このツクシで幼き頃こんな遊びをした記憶は有りませんか？ツクシのはかまのところから茎を引き抜いて、またもとに差し込み、つくつくぼっし、「どんどん」

「日本植物図鑑」にはスギナの語源は、その形状から杉の葉に似ているからと断定している。しかしこのわらべ歌にみられるように、ツクシもスギナも、突き出たや、杉の葉ではなくて、継いで遊ぶ坊主頭の草や、継ぎ菜、ではないかと思えてくる。ツギグサ、ツギツギグサ、ツギホ等々継ぐという意味の方言が多いのも興味深いのでは。



早いもので、一年があつ！という間に過ぎてしまった。節分が過ぎると春である、春と言ってもまだ寒い。季節より早い、日本人はせっかちなのでしょうか。冬は死であり、春は生命の復活であります。キリスト教でも復活節は春です。これから一年どんなことが庭や、植物に対する疑問が生まれるか。一緒に考えていきませんか・・・。



ツクシ



スギナ